



全く凄くない思い出話だけです…

秋田県大館市立比内中学校 統括事務長 畠山 智晴

出会い…昭和48年11月5日(月)。放課後一緒に遊んでいた友だちが「ソロバンの時間だから」と去ってしまい、遊ぶ相手がいなくなったことで「じゃ、自分もソロバン塾に行こうかな」という軽いノリで始めた小学3年生の晩秋。『103-6』が『97』になることがなかなか理解できなかった…。

挫折…検定試験も日商3級まではストレートに合格できたのに、2級では2度、1級では3度の不合格。思い返せば、合格ラインは一気に80点上がり、1級なんかは『小数5位まで』だった…。伝算算もあったりで、確実にレベルは高かった。小6の2月、ようやく1級に合格。

中学時代…部活動への加入が必須ではなかったことから中学校進学後も週2~3で塾に。この頃には、競技大会にも出場するようになってはいたものの、なかなか個人総合競技では頂点に立つことはできず、得意の読上暗算で1位を狙うことに。

高校時代…昭和55年、伝統ある秋田県立大館商業高等学校(現在は改称)珠算部に。熱心に応用計算を教えてくれた先輩。同時に簡便算も教わり、その重要性を感じた。漫才ブームで賑わっていたこの年、国民珠算競技大会は広島県で開催。B&B(漫才コンビです)ネタの「もみじ饅頭が買える!」と興奮。秋には他県に出向いた練習試合も経験。そこで出会った1つ上の女性と仲良くなったことも。彼女の実家の電話番号は今でも覚えています。そして高校2年。遂に、そろばん秋田県一を獲得。高3の2月、1級満点合格をし卒業。

就職…高校卒業と同時に現職に就職(秋田県職員・初級学校事務)。競技大会と向き合うことがなくなって約10年。ふと手元にあった問題集に手が伸びて、遊び半分で計算したところ、それ程の衰えも感じられなかったことから、平成4年全県大会で復帰。今年に至るまで31年連続出場。平成6年には、国民珠算競技大会が隣県岩手県で開催され

るからとの理由だけで、12年ぶりに出場した県予選大会で再び秋田県一に。平成14年には名人戦が青森県で開催。これもまた隣県だからとの理由だけで記念の出場。また、同業者には大館商業OBも多く、その中で珠算に興味のある面々で団体を組み全県大会にも出場。毎年、揃いのユニフォーム(Tシャツ)での出場が注目されることに。大人の『遊び』も加えて、楽しむソロバンに。平成22年、東北大会(福島県開催)で、六県対抗競技で同点決勝の末、無敵と言われた宮城県を倒して初の優勝。後にも先にも、涙を流した最初で最後の大会だったはずが、今年は選手から監督という立場に替わって12年ぶりの優勝でまた涙を流すことに…。

職場…学校勤務も40年目となり、ゲストティーチャーとして小学校の珠算の授業に何度か。しかし、あの短時間で『15+8』や『13-6』まで導こうとはなんと無謀な! 昨年の指導時には『1+2+5-2-1-5+10+5+1-5+10+7-2+10-1+10+50-40』を教え、「これを、素早くできれば、ソロバンをやったことがあるフリができるよ!」と。たぶんもう忘れていてでしょう…。

職務上、たくさんの数字と対峙しますが、私の机上には電卓はありません。そのほとんどは暗算で解決できます。そして、エクセルで資料を作成した時の、特にSUM関数の確かめ。必ず暗算で検算をしてしまいます。(頂く方も多いのでは)

計算力・記憶力・集中力・持続力・精神力…今さら私ごときが改めて語ることもないでしょう。

これまでの約半世紀で出会った、珠算に関係している全ての皆さまに心から感謝して、今年限りで私の珠算道をご破算としたいと思います。そして何より最後の東北大会で神様からの六県対抗優勝監督という最高のプレゼントに感謝しています。ありがとうございました。